

平成20年6月11日

日本学術振興会  
プロセスシステム工学第143委員会  
委員長 長谷部 伸治

プロセスシステム工学第143委員会  
第168回委員会・平成20年度第2回研究会 開催通知  
(143委員会ホームページ <http://www.pse143.org/>)

1. 日時：2008年7月25日(金)13:00～17:00 委員会・研究会
2. 場所：弘済会館 (東京都千代田区麹町5-1/電話：03-5276-0333)  
(交通：JR 中央線・地下鉄丸の内線「四ッ谷駅」下車徒歩3分)  
<http://www.kousaikai.or.jp/hall/>
3. 委員会：(13:00～13:10)
4. 研究会：(13:10～17:00)

特別講演

13:10-14:10 「化学／プロセス産業における革新的生産システムの構築—新たな生産方式の胎動—」  
経済産業省製造産業局化学課 山根 啓 氏  
<概要>プロセス産業が抱える競争力強化のための課題は各企業に根深く存在する。製造現場に求められる要求が高くかつ厳しくなる中で現場の実情に疎くなりがちな経営部門は真の解決策を見出すことは難しくなっている。今こそ現状を現場発で認識し、業務全体を見直して整理し、これまでのノウハウを分析して再構築していくという総括的な作業が必要となっている。プロセス産業のための新しい生産管理方式を研究してきた「生産革新研究会」が報告書をまとめた機会に、化学産業への期待と今後の展望について述べる。  
報告書掲載サイト <http://www.meti.go.jp/policy/chemistry/index.html>

テーマ：アラームマネジメント

14:10-15:10 「U.S. and European Industry Trends in Alarm Management」  
Mr. Bill R. Hollifield - Plant Automation Services, Inc.  
<概要>This talk will provide an overview of industry activities and progress in Alarm Management. The status of efforts currently underway by various standards-making and governing bodies will be covered.

15:10-15:20 (休憩)

15:20-16:20 「日本の化学プラントにおけるアラームマネジメントの現状と課題」  
株式会社山武 高井 努 氏  
<概要>早くから安定操業の一環として現場主導で取り組まれてきたアラーム削減活動の結果、日本の化学プラントには既に EEMUA 推奨レベルのアラーム数に達しているものが多々ある。しかし、その運転方法はエキスパートオペレータ個人の知識として存在し、管理と伝承に課題がある。本発表では、そのような日本の化学プラントの現状と課題、そしてまさに今、取り組みを開始した新しい動向について述べる。またそれらについて、Hollifield 氏とディスカッションする。

16:20-16:50 「アラーム削減活動の現状とアラームマネジメントへの期待」

出光興産株式会社 山本 一三 氏, 樋口 文孝 委員

<概要>当社においても, TPM 活動等を通じて DCS アラーム発報数の削減への取組みを実施してきた. しかし, 系統だった設計・評価基準は設けておらず, 一時的な改善としては実績を上げているが, その継続性には疑問を持つ部分もある. アラーム削減活動の現状について事例を紹介し, 今後の課題とアラームマネジメントへの期待について述べる.

16:50-17:00 総合討論

<追記>

準備の都合がありますので, 出欠をご記入の上, 7月11日(金)までにご回答下さい.